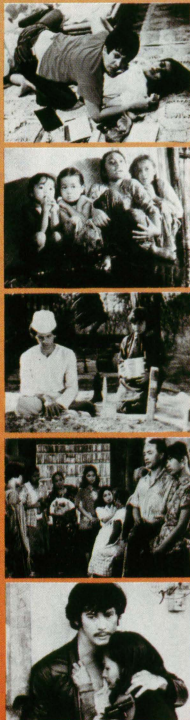


美しい大地の
声が聞こえる。



この大地には、
素朴に、たんとと
映画へのひたむきな情熱を
語る人々がいる。
——アセアンの国々。

ASEAN FILM WEEK



R. A. Kartini

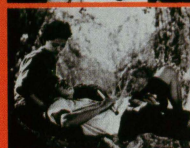
Kejarlah Daku Kau Kutangkap

Ranjau Sepanjang Jalan



Puteri

Himala



Baby Tsina

Reincarnation



Phree Kao

Namphu

カルティニ

インドネシア●シユマン・シヤヤ監督作品

追いつ追われつ

インドネシア●ハエルル・ワムム監督作品

いばらのあぜ道

マレーシア●ジャミル・スロン監督作品 * '83マレーシア映画祭グランプリ

ブトリの恋人

マレーシア●ラヒム・ラザリ監督作品 * '87マレーシア映画祭グランプリ

奇跡の女

フィリピン●イシュマエル・ベルナル監督作品

ベビー・チナ

フィリピン●マリル・ティアス・アバヤ監督作品

生まれ変わり

シンガポール●SBC-TV制作 *この作品のみビデオ・ワイド・プロジェクションによる上映となります。

傷あと

タイ●チャート・ソンスイー監督作品

ナンバーは死んだ

タイ●ユツタナー・ムクダーサニット監督作品

アセアン映画週間

主催 アセアン映画週間実行委員会・(財)東京国際映像文化振興会 ●後援 外務省・国際交流基金・日本放送協会

12/3 土 9 金

銀座テアトル西友

銀座線京橋駅下車(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

入場券 ●前売600円・当日800円

チケットぴあ チケットセゾン テアトル西友 都内各プレイガイド他にて発売中
お問い合わせ ●アセアン映画週間実行委員会 TEL 03(535)7433

アセアン諸国に映画の花盛りを訪ねて

佐藤忠男

いま、アジアの映画が面白い。だんぜん面白い。インド、中国、韓国、香港、台湾などの映画についてはもう、日本でも本当の映画好きなら喜んでかけてつけるようになっていくが、まだまだ面白い映画を作っているのにその真価がよくは知られていないアジアの国々がある。アセアン諸国がそれだ。

アセアン映画週間実行委員会の委嘱で、今回上映される作品を選ぶために私は今年の五月にアセアン諸国を訪ねた。そして各国の政府機関、映画界、日本大使館、国際交流基金の出張所などの全面的な協力を得て、各国でそれぞれ多数の重要な作品を試写していただいて、その中から厳選した。じつに多数の良い映画があり、選ぶ本数に限りがあるのが辛かったほどである。一承知のように、いまアセアン諸国は力強い国づくりを進めて発展しつつある。民族意識も高まっている。それが映画にも反映しているのだ。タイ映画の「傷あと」とフィリピン映画の「奇跡の女」は私が以前にこれらの国々を訪ねたときに見て感動し、以来、なんとか日本で紹介する機会を得られないものかと考えていたものであり、こんどそれが実現して嬉しい。マレーシア映画の「いばらのあぜ道」は、かつて今村昌平監督が「女術」の撮影でマレーシアに行ったときに見て感動し、現地の新聞でその素晴

らしさを賞賛していた作品であった。私はその記事を読んでいたので今村監督から連絡先を教えていただいたので、大使館を通じてフィルムを借りて見たのだった。期待して見て期待にたがわぬ傑作であったときは嬉しいものである。「カルティニ」のシユマン・ジャヤ監督は一昨年惜しまれて亡くなった。私はこの人の作品をこれまでに六本見ているが、いずれも見応えのあるもので、インドネシア映画史上、おそらく最大の巨匠ではないかと思っていたのである。ごらんになればお分りいただける苦であるが、じつに優美なスタイルを持った女性映画であり、インドネシアの国民映画である。追悼の意をこめて上映したい。タイ映画「ナンバーは死んだ」やフィリピン映画「ベビー・チナ」を見ると、アセアン諸国の映画界にも確実にヌーベルバーグがわきおこりつつあることを感じとることができると、インドネシア映画「追いつ追われつ」の軽快さも捨て難い。シンガポールとブルネイでは映画は作られていない。しかしシンガポールのばあいはテレビの発展は目ざましいものがあるので、テレビドラマを一本、ビデオで特別に参加していただくことにした。これらの国々でも映画が作られる日を私はこのしみにしている。

インドネシア
「カルティニ」
監督/シユマン・ジャヤ
19世紀末のジャワで、はじめて民族意識にめざめた女性の壮大で浪漫的なドラマ。

マレーシア
「いばらのあぜ道」
監督/ジャミル・スロン
マレーシア文壇の第一人者シャーノン・マハマトの代表的な長編小説の完全映画化。
「プトリの恋人」
監督/ラヒム・ラザリ
お嬢さんと野性的な青年とのラブストーリー。マレーシアの典型的な娯楽映画。

フィリピン
「奇跡の女」
監督/イシュマエル・ベルナル
フィリピンを代表する女優ノーラ・オノールのマリア崇拜を題材とした奇跡の物語。
「ベビー・チナ」
監督/マリル・ディアス・アバヤ
人気絶頂のスーパースター、ヴィルマ・サントス主演のアクション中心の女性映画。

シンガポール
「生まれ変わり」
SBC-TV制作
人気番組「奇縁」シリーズを再編集した作品。輪廻転生を描く怪奇とロマンの恋物語。

タイ
「傷あと」
監督/チャート・ソンスイ
タイ映画史上最高のヒットとなった作品。ロミオとジュリエットの悲恋物語。
「ナンバーは死んだ」
監督/ユッタナー・ムクダーサニット
タイ映画界のヌーベルバーグの代表といわれるユッタナー監督の実話に基づく問題作。

12/3(土) 9(金) アセアン映画週間 ASEAN FILM WEEK

主催/アセアン映画週間実行委員会・(財)東京国際映像文化振興会◆後援/外務省・国際交流基金・日本放送協会

上映スケジュール

	12/3[土]	12/4[日]	12/5[月]	12/6[火]	12/7[水]	12/8[木]	12/9[金]
1:30 ↓ 3:30 (休憩 45分)	「いばらのあぜ道」 (1h37) ※舞台挨拶 ジャミル・スロン(監督) カマルル・アリフィン (製作)	「プトリの恋人」 (1h43) ※舞台挨拶 ラヒム・ラザリ (監督)				「追いつ追われつ」 (1h51)	「傷あと」 (2h10)
4:15 ↓ 6:15 (休憩 45分)	「ベビー・チナ」 (2h11) ※舞台挨拶 マリル・ディアス・アバヤ (監督) ヴィルマ・サントス (主演女優)	「追いつ追われつ」 (1h51) ※舞台挨拶 ハエルル・ウマム (監督)	「奇跡の女」 (2h00) ※舞台挨拶 イシュマエル・ベルナル (監督)	「いばらのあぜ道」 (1h37)	「生まれ変わり」 (2h00) ※舞台挨拶 ウィニー・ワン・ロン・ホン (監督) リー・ウェン・ハイ (主演俳優)	「プトリの恋人」 (1h43)	「ナンバーは死んだ」 (2h09)
7:00 ↓	「ベビー・チナ」 (2h11)	「傷あと」 (2h10) ※舞台挨拶 チャート・ソンスイ (監督)	「カルティニ」 (2h51) ※舞台挨拶 ナニ・ウジャヤ(女優)	「ナンバーは死んだ」 (2h09) ※舞台挨拶 ユッタナー・ムクダーサニット(監督) パトラアデー・スリトラット プラディ(女優)	「生まれ変わり」 (2h00)	「奇跡の女」 (2h00)	「カルティニ」 (2h51)

※舞台挨拶のゲストは変更になる場合もあります。

銀座テアトル西友
銀座線京橋駅下車(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

GINZA THEATRE SEIYU
入場券 ●前売600円、当日800円
チケットぴあ/チケットセン/テアトル西友/都内各プレイガイド他に発売中
お問い合わせ ●アセアン映画週間実行委員会 TEL 03(535)7433

